

令和4年度事業報告

1 コロナ禍の支部活動

国内で新型コロナウィルスの感染が確認されてから丸3年となった今年度は、第7波、第8波と感染が拡大した。年が明け新たな感染者は減少傾向となっているが、一方で、亡くなる高齢者が相次いでいる。

こうした状況を踏まえ、大分支部の活動も前年度に引き続き大幅な自粛を余儀なくされた。

・支部総会	懇親会を開かず簡素化して実施した。
・職域交流会	職域企業、職域支部で現役で働く会員が集まる交流会は、会食自粛等を考慮して中止した。
・学生と先輩との交流会	経済学部に開催を打診したところ、新型コロナウィルスがいまだ収束していないため、後期の授業期間中は、対面事業を維持することが最優先であり、今年度は見合わせたいとのことであった。
・囲碁大会	室内での長時間対陣を避け、中止した。
・麻雀大会	室内での長時間対陣を避け、中止した。
・登山会、歩こう会	コロナ禍などの理由により中止とした。

2 大分支部理事会・総会

- ・理事会 令和4年4月28日
決算・予算等を審議
- 役員改選について審議



- ・総会 令和4年6月25日
経済学部創立100周年記念式典と同日に開催した。
令和3年度事業報告・同決算を承認
令和4年度の事業計画・同予算を承認
新支部長、新副支部長1人、新理事2人
相談役1人を選任



3 経済学部創立100周年記念事業の推進

令和4年6月25日、大分市内iichiko総合文化センターにおいて、ご来賓、大分大学の教員、四極会員、学生ら多数の参加をえて、記念式典が盛大に開催された。

記念式典に引き続き、「大航海時代と大友宗麟」の演題で、直木賞作家 安部龍太郎氏の講演会が音の泉ホールであった。

なお、前夜祭と祝賀会はコロナ禍のもと中止となった。

大分支部としては、これに積極的に参加するとともに、次のとおり記念事業の推進に当たりその企画・運営について全面的な支援を行った。

①自遊展

これまで、大分支部の親睦会事業として実施してきたが、令和4年度については、100周年記念事業の一環として本部主催で実施した。



日時 6月22日～26日

場所 iichiko総合文化センター
アトリウムプラザ

出品者 絵画、版画、能面、写真、水墨画
短歌、俳句、川柳、木彫、陶芸、
書籍、映像などの分野から
51人(うち大分支部29人)131作品

来場者 延べ832人

②ゴルフ大会

これまで、大分支部の親睦会事業として実施してきたが、令和4年度については、100周年記念事業の一環として本部主催で実施した。



日時 6月26日

場所 大分竹中カントリークラブ
参加者 36人(うち大分支部24人)

優勝 相良浩四極会名誉会長(大学12回)
準優勝 沼口秀一さん(大学18回、宮崎県)

③記念ツアー



・臼杵石仏・城下町ツアー

日時 6月26日

参加者 10名(うち大分支部4人)

稻葉家下屋敷、野上弥生子記念館、
二王座歴史の道、臼杵石仏、龍原寺



・母校訪問ツアー

日時 6月25日

参加者 17名(うち大分支部4人)

上野丘公舎跡地、旦野原キャンパス
黒土始記念講堂

4 親睦会

第52回ゴルフ大会

恒例の秋のゴルフ大会は、10月14日 23名のご参加をいただき、大分東急ゴルフクラブで熱戦が展開された。

成績は、優勝 土森 武志さん(大学14回)、準優勝 大野 千代喜さん(大学12回)であった。



5 四極大分の発行

10月「四極大分」NO.29 を発行した。

巻頭文は、新支部長に就任した高野 浩子さん(大学34回)の新任の挨拶を掲載した。

また、3期6年大分支部長を務められた高井 道晴さん(大学21回)の退任のあいさつを掲載した。

好評の四極鼎談は大学18回生4人にご協力をいただいた。

- ・ページ数:20 部数: 1, 900部
- ・配布先 支部会員、職域企業、職域支部
全国各支部、経済学部



6 会員拡大のための活動

100周年募金者のうち、大分市・由布市在住の方々212名の方々に呼びかけしたことなどにより、新たに16名が加入した。